

令和5年度「地域学校協働本部事業」 放課後子ども教室の取組事例

「ひろの元気教室」の成果と課題(福島県広野町)

取組の概要や経緯

当教室は、震災以降に運行されているスクールバスの待ち時間を利用して、学習や体験活動を行ってほしいという学校からの要請を受け、平成26年度から開設している。学習支援を中心として地域住民との交流、体験活動を通して、子どもたちの社交性・自主性・創造性を育むことを目的とする。



内容

- 広野小学校において、小学4年生から6年生を対象に火曜日から木曜日の授業終了後や夏休みに学習支援や体験活動、自由活動、スポーツ教室等を実施。
 - 火曜日 宿題や体験活動等（昔話の講話、折り紙、絵手紙、切り絵、化石、クラフト等）
 - 水曜日 宿題や自由活動等（バドミントン、バスケットボール、ボードゲーム等）
 - 木曜日 スポーツ教室（サッカー、バドミントン、なわとび、体づくりトレーニング等）



ポイント

- 地域で文化芸術等の分野で活動している指導者を講師に迎えて、各分野での体験活動やスポーツ教室等を実施し地域の人材発掘と交流を実施した。
- 自主性の育成と安全確認のために、活動ノートへの記入、終礼等を行ってからの下校とする。
- 月末に翌月のスケジュールを児童及び保護者に郵送し、体験活動のねらいと内容、準備物等を周知する。

成果

- 協働活動支援員による学習支援を行うことにより、同学年の友達と学び合いながら宿題や自学に取り組むことができた。
- 学校の授業では学ばない地元の歴史や文化・専門分野などを、地域住民からの体験活動とおして学ぶことができ、地域への愛着や興味を深め、魅力を発見や交流につながった。

今後の方向性

○当教室開設当時からの環境が変化していることから、事業の運営について学校や保護者、児童のニーズを考慮しながら、開催日時の見直しや内容の工夫を検討していく。

○地域の芸術・文化団体、スポーツ分野の指導者や、歴史や地理等に詳しい地域住民への参加協力を呼びかけ、子どもたちの地域との繋がりをより広げたい。